

実需者との連携・情報交換による 輸入野菜からのシェア奪還

～ 大崎町キャベツ出荷組合(鹿児島県大崎町) ～



1 組織の概要

組織名称	大崎町キャベツ出荷組合
組織形態	任意組合
代表者名	組合長 片平 正春
所在地	鹿児島県曽於郡大崎町永吉2381-1 (有)片平農産 集出荷場
連絡先	TEL/FAX:0994-63-1117
販売額	販売総額 1億2千万円(キャベツ10割)
取組者数・構成員数	3法人3個人

注: 販売総額は25年産のデータ

2 取組の推移

平成15年	大崎町が冬キャベツの野菜指定産地として指定
平成20年	大崎町キャベツ出荷組合設立
〃	「かごしまの農林水産物認証(K-GAP)」を取得
平成26年	加工・業務用野菜生産基盤強化事業(国)に取り組む

3 加工・業務用野菜の取組概要

(1)基礎情報

取扱品目	キャベツ
作付面積	62.72ha
出荷量	3,449.8t
出荷時期	11月～6月
品種名	初恋、夢ごろも 他
主な出荷先 (主な用途)	(有)太陽ファーム他(カット用)
出荷形態等	鉄コンテナ、15kg入り段ボール
取引先からのニーズ	・寒玉系品種 ・大玉(2～2.5kg/玉中心)



大崎町キャベツ出荷組合のメンバー

注: 作付面積・出荷量は26年産K-GAP申請データ

(2) 取り組んだきっかけ

近年の生活スタイルの変化による食の外部化の進展により、加工・業務用野菜の需要が伸びる情勢に生産者が一体となり、そのスケールメリットを活かし、キャベツ産地の維持拡大、所得向上を目的に設立した。

(3) 取組の特徴

出荷開始から週1回、組合員間での会議を実施し、実需者ニーズに合わせたキャベツを安定供給。

- ① 毎年6～7月頃までに、取引先の月毎、旬毎の希望数量を把握し、組合員の生産計画と照らし、出荷計画を策定。
- ② 出荷開始時(11月中下旬)からは、毎週1回、週間の出荷オーダーを協議し出荷。また、打合せ時に翌週、翌々週の出荷予定ほ場の生育状況を確認し、取引先へ情報提供。
- ③ 栽培品種は毎年7月までに、取引先との反省課題を踏まえ、関係機関、種苗メーカー等と検討会を実施し、組合員全員で決定。
- ④ 組合員は、週1回の定例会において、生育状況を報告し、問題等がある場合は、現地での検討を実施。
- ⑤ 大玉生産に努めていたが、実需者ニーズにより株間をせまくし、2～2.5kg/玉中心で出荷。
- ⑥ 組合設立当初からK-GAP(かごしまの農林水産物認証:認証番号150080号)を毎年更新。
- ⑦ 1～3月が出荷最盛期となるよう生産計画を策定、この期間は数種類の品種を栽培しリスク分散。

(4) 関係機関の支援

- ① 週1回の打ち合わせ時に、毎週、鹿児島県曾於畑地かんがい農業推進センターも参加し、生産に関する情報提供を含め現地における指導支援。
- ② 補助事業に関する情報提供や申請準備段階において鹿児島県、大崎町役場よりアドバイス。

4 販売先の開拓

- ① 組合設立以前より、取引実績のある業者を主体に販売。既存の取引先の出荷量増量要望に対応。
- ② 結成当初は14社と取引を行っていたが、現在は6社に絞り、安定供給に努めている。
- ③ 年に数回、相互に産地と取引先において、意見交換会等を実施。

5 課題とその対応

- ① 5～6月穫りキャベツでは、他県より出荷が始まることから、当組合においては、1～3月が出荷最盛期となるよう、実需者と協議し生産計画を作成。
- ② 取引先への運送も対応していたが、運搬途上におけるトラブルにも対処せざるを得ないことから、現在は引き取りが中心。
- ③ 育苗期間は台風シーズンにあり、襲来時に相当数のセルトレイ(共同育苗分)を倉庫等に避難せざるを得ず、健全な苗を生産できないことから、耐候性の施設整備を検討。

6 取組成果

- ① 取引先との意見交換を十分に行うことで、双方に信頼できる関係が構築でき、安定した契約取引を行っている。
- ② 組合での定期的な会議開催で、生産者間での情報交換を行い、安定生産と品質向上が図られ、年々、取引先からのクレームも少なくなっている。



組合のキャラクター
「おおさきキャベちゃん」

7 今後の展開

大崎町内外の生産者加入も推進し、キャベツの品質向上と更なる生産者の所得向上を目指したい。